

個人投資家向け会社説明会

2009年7月14日

代表取締役社長 中川 博司

- 1 . 当社の概要
- 2 . 2009年3月期 事業報告
- 3 . 2009年3月期 決算報告
- 4 . 今後の取り組み
- 5 . 2010年3月期 計画

1 . 当社の概要

1-1 . 会社概要

会社概要

社名	株式会社イナリサーチ
設立	1974年7月13日
代表者名	代表取締役社長 中川博司
資本金	683百万円
従業員数	314名 (連結：2009年3月末現在)
本社・研究所	長野県伊那市西箕輪 2 1 4 8 番地 1 8 8
関連会社	Ina Research Philippines, Inc. Inaphil, Incorporated
事業内容	<ul style="list-style-type: none">・医薬品等の安全性試験、薬効薬理試験等の非臨床試験、臨床試験の受託・食品のヒト試験、非臨床試験の受託・環境設備/試験機器の開発、販売



本社・研究所（長野県伊那市）

株式情報

証券コード	2176
上場市場	JASDAQ
株式の売買単位	1株

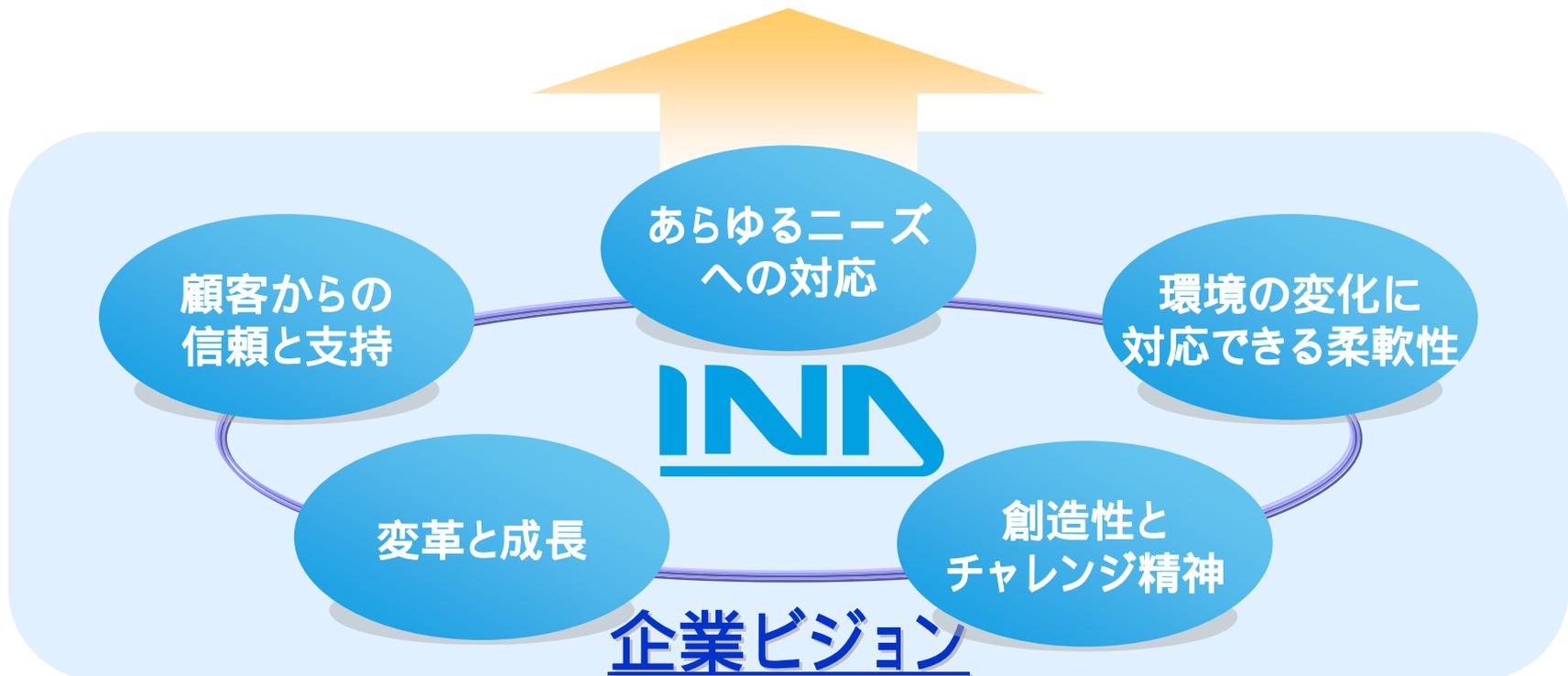
1-2 . 沿革

1974年 7月	長野県伊那市にて創業（商号：有限会社信州実験動物センター）
1983年 4月	GLP()施行、同時にGLP対応試験の受託開始
1986年 9月	医薬品GLP適合性評価「A」取得
1988年 3月	第2研究所を開設
1989年 7月	株式会社イナリサーチに商号を変更
1992年 9月	東京出張所開設（1997年1月 東京支所へ改称）
1992年11月	サル試験棟（第2棟）を新設し、サル試験受託開始
1994年 4月	フィリピン現地法人Ina Research Philippines, Inc.（INARP）を設立
1995年 1月	大阪出張所開設（1995年6月 大阪支所へ改称）
1998年 5月	INARPにサル育成施設『PQCC』（Primate Quality Control Center）を開設
2001年 6月	サル検疫棟（第4棟）を新設
2003年 4月	試験研究棟（第5棟）を増設
2005年 2月	日本初のAAALAC International（国際実験動物管理公認協会）完全認証取得
2005年12月	試験研究棟（第6棟）を増設
2008年 6月	ジャスダック証券取引所に株式を上場
2008年 7月	試験研究棟（第7棟）を増設
2009年 3月	本社隣接地に 26,000m² の土地を取得

1-3 . 経営理念と企業ビジョン

経営理念

人類の永遠の平和存続を願い、
医薬品、農薬、食品等の
開発支援サービスを通じて社会に貢献する



1-4 . 当社の事業内容

■ 事業の概要と売上高構成比

医薬品非臨床試験事業

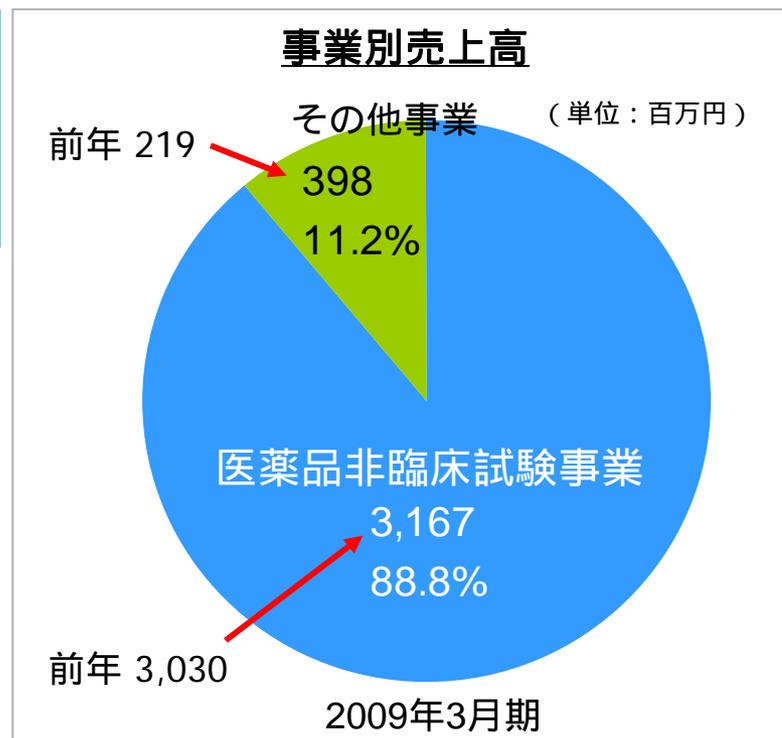
- ◆ 医薬品開発企業の委託を受けて、個別に試験を実施
- ◆ 基礎研究段階で探索・創製された医薬候補物質を実験動物・細胞・細菌を用いて安全性・有効性を確認

臨床試験事業

- ◆ 医薬品開発のためのヒトによる臨床試験を実施

その他事業

- ◆ 『環境事業』
空気環境対策のノウハウを生かした脱臭システムの設計・販売
- ◆ 『食品試験事業』
健康食品やその素材を対象とした、非臨床試験および臨床試験を実施



1-5 . 当社の中長期戦略

当社が目指すサービス領域

『Proof of concept (プルーフオブコンセプト)』

医薬品開発支援サービスの領域を拡大し、探索段階からEarly Phase IIまで手掛ける

IND

Thorough
QT/QTc試験

Early Phase

Phase

Phase ~

非臨床領域

毒性試験

臨床領域

安全性薬理
試験

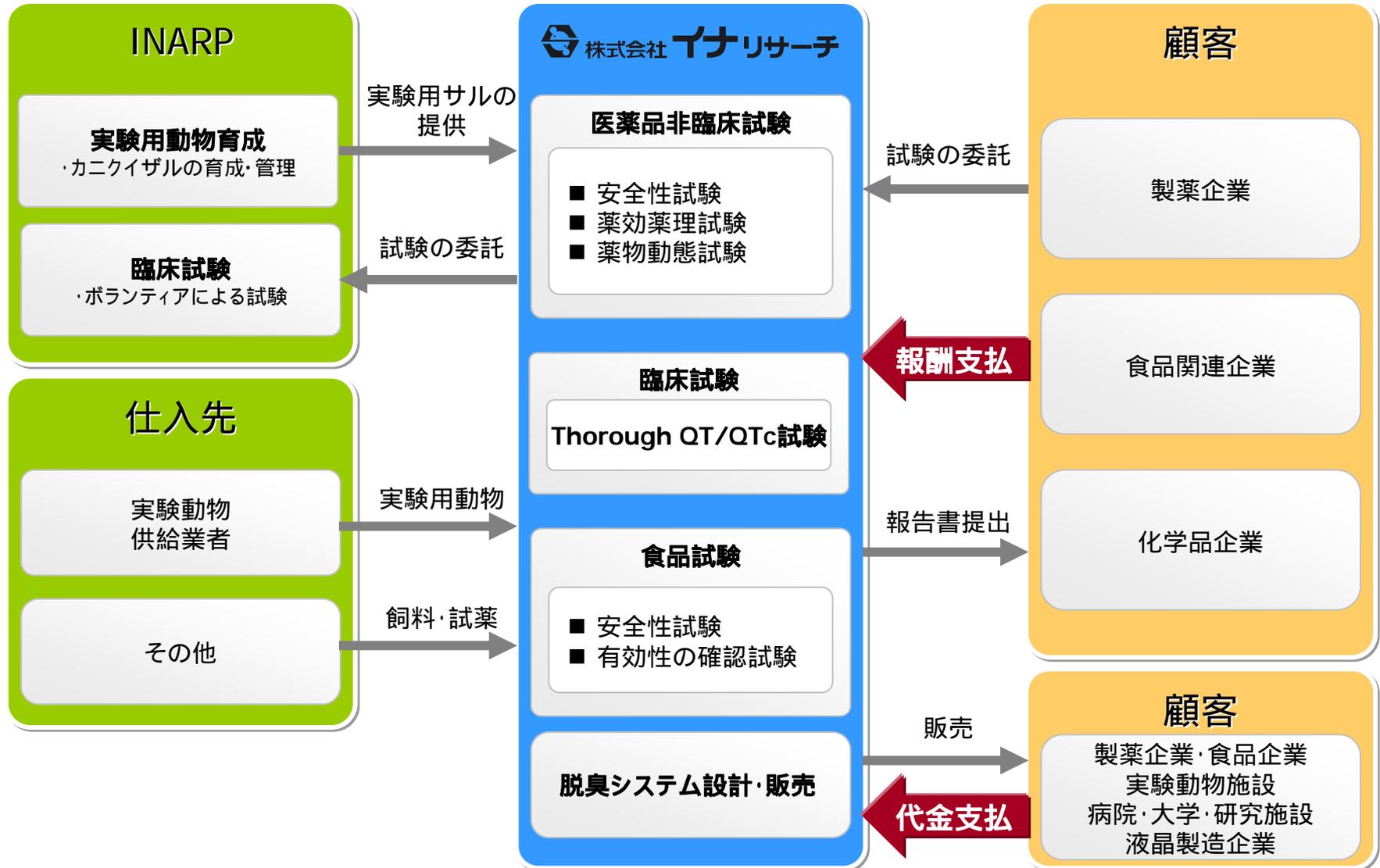
探索毒性
試験

サービス領域の拡大

探索における非臨床試験から
Early Phase IIまで一貫した
サービスを提供する

Thorough QT/QTc試験
ヒトによる循環器への
副作用を予測する
ための試験

1-6 . ビジネスモデル



1-7 . 当社の中核事業

長野県伊那市に本社を構え、医薬品開発に必要不可欠な

『医薬品非臨床試験』

を中心に手がける“CRO（試験受託機関）”企業

株式会社 **イナリサーチ**

非臨床試験

臨床試験
(治験)

アウトソーシング

医薬品候補物質の
探索・創製



安全性・有効性
の確認

国
の
承認

製造販売



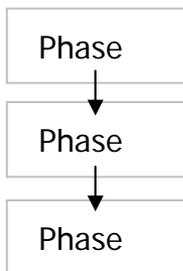
製薬企業における医薬品開発プロセス

1-8 . 医薬品の開発プロセス

基礎研究
2～3年

非臨床試験
3～5年

臨床試験
(治験)
3～7年



承認申請・審査・承認
薬価基準収載
1～2年

販売

非臨床試験とは・・・

医薬品の研究開発において、

有効性・安全性を評価するために
実験動物・細胞を用いて
薬効薬理作用、生体内での動態、
有害な作用などを調査する

試験のことを指す。

- ◆ 医薬品の有効性と安全性を評価・証明するための科学的データを提供するもの
- ◆ 臨床試験へと進むために必要であるとともに臨床における有効性と安全性を裏づけるために重要なプロセス
- ◆ 非臨床試験の結果、有効性が期待でき、安全性にも問題がないと考えられた場合にヒトで行うのが臨床試験

1-9-1 . 当社の強み

～ 優位性の高い独自試験及び得意試験の保有～

- 当社独自のサル試験系を保有することで市場優位性を確保
また、得意分野の試験に注力することで、高い成長性を実現

< 当社独自試験例 >

薬物依存性試験

無麻酔眼圧測定試験

サル催不整脈モデル

パーキンソンモデル
薬効試験

サル
トキシコジェノミクス

< 当社得意試験例 >

長時間持続静脈内投与

生殖発生毒性試験

1-9-2 . 当社の強み

～ 実験動物（サル）の調達能力とクオリティ～

- フィリピンの子会社INARPによる仕入れとPQCCでの育成に加え、新たに**中国供給ルートの新規構築**により、さらなる安定した調達能力と高いクオリティを実現

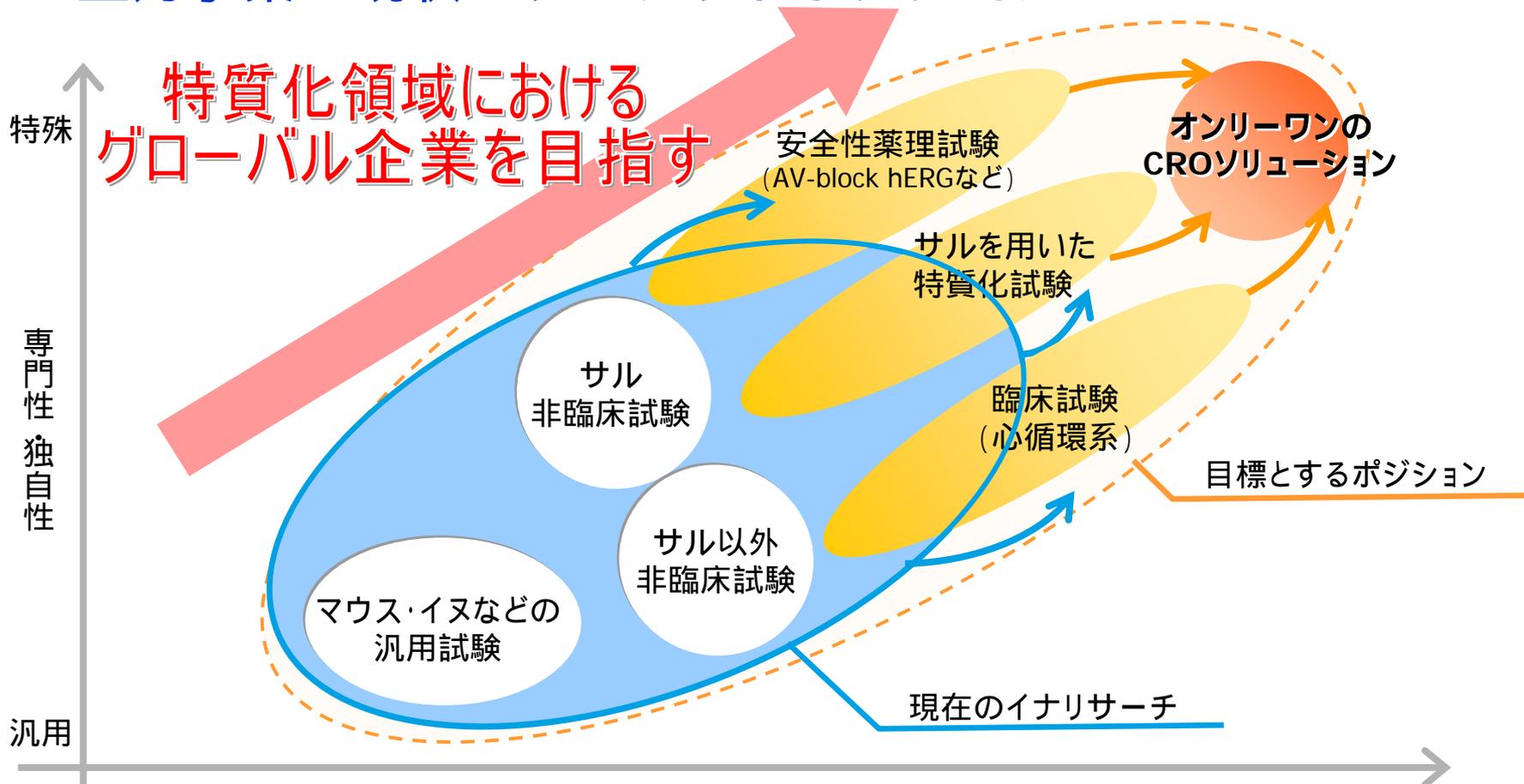
当社の調達ルートと高品質化の仕組み

0歳 2.0～2.5歳 3歳 サルの年齢



1-10 . 目標とするポジション

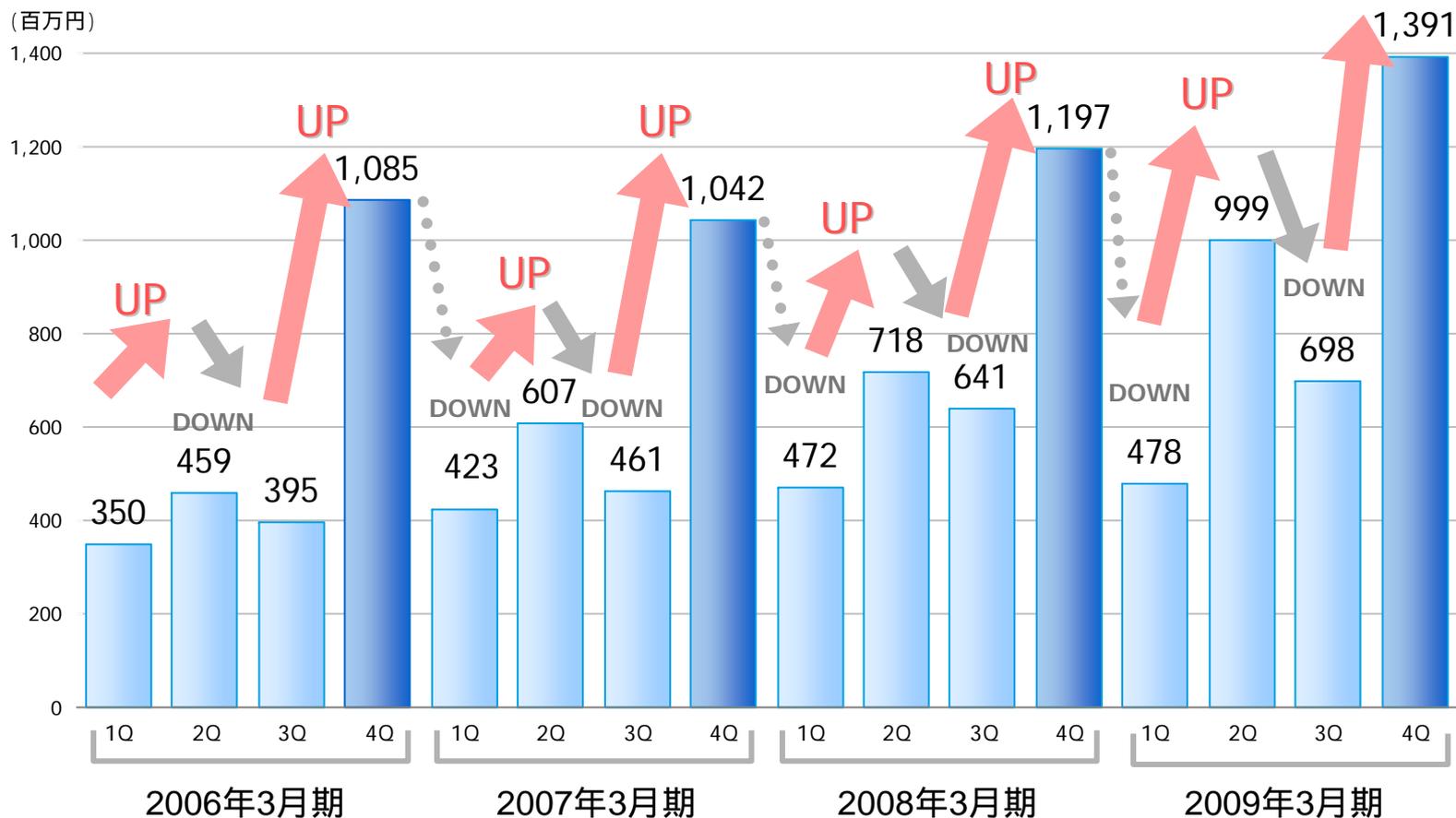
■主力事業の現状とターゲットポジション



特質化領域においてIn vitro (試験管内試験) から臨床までを包括する総合評価力を備えたグローバルな試験機関を目指す

1-11 . 医薬品非臨床試験事業の季節変動について

- ◆ 顧客製薬企業の予算執行および予算計上の都合上、第4四半期に売上が集中
- ◆ 第1および第3四半期については終了する試験数が少なく、例年売上が落ち込む傾向
- ◆ 主要事業の売上が落ち込む第1四半期、第3四半期は固定費をカバーしきれず、一時的に収益が低下する



2 . 2009年3月期 事業報告

2-1 . 医薬品 非臨床試験事業 (動物種別内容)

動物種別売上

3,030,472千円

3,167,897千円

2008年3月期



2009年3月期

取り組みと成果

1 . 小動物 (特にラット) 試験

近年急成長したサル試験とバランスよく事業を拡大するため、
小動物試験の拡販に傾注した
対前期比 70百万円 の売上増加となった

2 . サル試験

2008年9月に稼働した新棟 (第7棟) により収容頭数は45%増加した
対前期比 60百万円 の売上増加となった

3 . その他

小動物及びサル以外の売上はトータルでほぼ横ばいであった

2-1 . 医薬品 非臨床試験事業 (試験種別内容)

試験種別売上

3,030,472千円

3,167,897千円

2008年3月期



2009年3月期

取り組みと成果

1 . 一般毒性試験

ラット、サルの反復投与試験の拡販が順調だった
対前期比 80百万円 の売上増加となった

2 . 生殖発生毒性試験

ラットによる試験が増加
対前期比 65百万円 の売上増加となった

3 . その他

サルのテレメトリー試験等の安全性薬理試験は増加したが、
薬効薬理試験が減少したことから、一般毒性と生殖発生毒性以外の
試験について、ほぼ横ばいであった

2-1 . 医薬品 非臨床試験事業 (事業環境整備状況)

将来の事業拡大にむけた事業環境の整備

1) 試験受託体制の強化

- ◆ 新研究棟 (第7棟) の操業を開始し、サル試験の強化・拡充を実現



受託能力

1. サル テレメトリー試験および慢性房室ブロックのサルモデルを用いたQT延長評価試験が**12試験同時**に実施可能
2. サルの収容頭数が**45%**増加、ウサギの収容頭数が**33%**増加

2) サルの安定確保に向けた仕組みの構築

- ◆ フィリピンルート (当社子会社のINARPからの輸入) に加え、新たにフィリピン以外の国からの独自調達ルートを構築完了

3) 安全性試験支援システム : Provantis™ の導入を決定 (データ採取 ~ 帳票作成までを支援)

- ◆ 試験実施業務の合理化、信頼性の向上
- ◆ お客様のご要望に柔軟に対応可能

2-2 . 医薬品 臨床試験事業

臨床試験早期受注獲得への取り組み

- ◆ 子会社INARP臨床試験施設における Thorough QT試験 実施体制の整備・構築が完了

Thorough QT試験: 医薬品の循環器への副作用をヒトにより予測評価する試験

- ◆ 基礎データの取得・分析を行い、第9回世界臨床薬理学会においてThorough QT試験の結果を公表
- ◆ フィリピンの臨床試験施設での多人種ボランティアにおける試験系開発
- ◆ 国内・国外(欧・米)での営業活動強化

2-3-1 . その他事業：環境関連

積極的な営業展開で知名度向上 売上133.7%増

- ◆ 総合カタログを刷新し、積極的な営業活動を展開
- ◆ 建築案件に関し、従前より粘り強く引き合いに対応してきたことによる
ゼネコンからの評価・認知度向上
- ◆ 医療機関等から空調・スクラバー設置の大型工事を受注し、期内に売上
空調・スクラバー新規設備の売上 約3倍増
新規八ニカム脱臭装置の売上 約2倍増
- ◆ 各種脱臭装置の保守修理業務が堅調
定期保守契約金額が増加し事業の安定に寄与。売上20%超の増加
- ◆ 試験機器、飼育機器等の営業強化（人員増強）により消耗品販売が急増
永年培った試験実施・飼育ノウハウに基づく営業の成果
売上約2.5倍

2-3-2 . その他事業：食品試験関連

動物試験（非臨床試験）

- ◆ 健康食品（素材開発）において、第三者機関による安全性評価実施機関として、本社研究所にて小動物での安全性試験を実施
- ◆ 医薬品試験で蓄積したノウハウと試験品質をバックグラウンドにして営業展開
参入業者の増加及び価格競争の激化により苦戦。
前期比6百万円の売上減となった。

ヒト試験（臨床試験）

- ◆ フィリピン子会社 (INARP)にて、ヒト試験を実施
- ◆ 他人種ボランティアの拡充
食品ヒト試験の需要はあるが、国内試験実施機関の低価格攻勢により、受注獲得が伸びず、前期比5百万円の売上減となった。

3 . 2009年3月期 決算報告

3-1 . 要約

◆ 売上高

医薬品非臨床試験事業は、サルの一般毒性試験・安全性薬理試験、ラットの生殖発生毒性試験が増加したことにより、前期比137百万円（4.5%）の増加となった。

また、環境関連では空調・脱臭設備及び試験機器・飼育機器の販売が好調だったことにより前期比190百万円（133.6%）の増加となり、事業全体では前期比316百万円（9.7%）の増加となった。

◆ 営業利益

2008年9月に稼働を開始した第7棟により試験実施能力は向上したが、当期の売上への貢献はわずかだったことにより、いわゆる先行投資部分としての第7棟の償却費や光熱費等諸経費及び人件費の増加が収益を圧迫し、営業利益は前期比34百万円（8.8%）の減少となった。

◆ 経常利益

2008年6月の上場による資金調達により借入金を圧縮し、支払利息を前期比11百万円削減したが、株式上場に伴う上場一時費用が営業外費用にて30百万円発生したこと等により経常利益は前期比32百万円（9.9%）の減少となった。

◆ 当期純利益

サル試験において従前より半年程度年齢の高いサルの需要が増加したことから、フィリピン子会社INARPから本社へのサルの売上が減少し、INARPの収益を圧迫した。その結果、当期純利益は前期比50百万円（28.3%）の減少となった。

3-2 . 2 0 0 9 年 3 月 期 決 算

(単位:百万円)

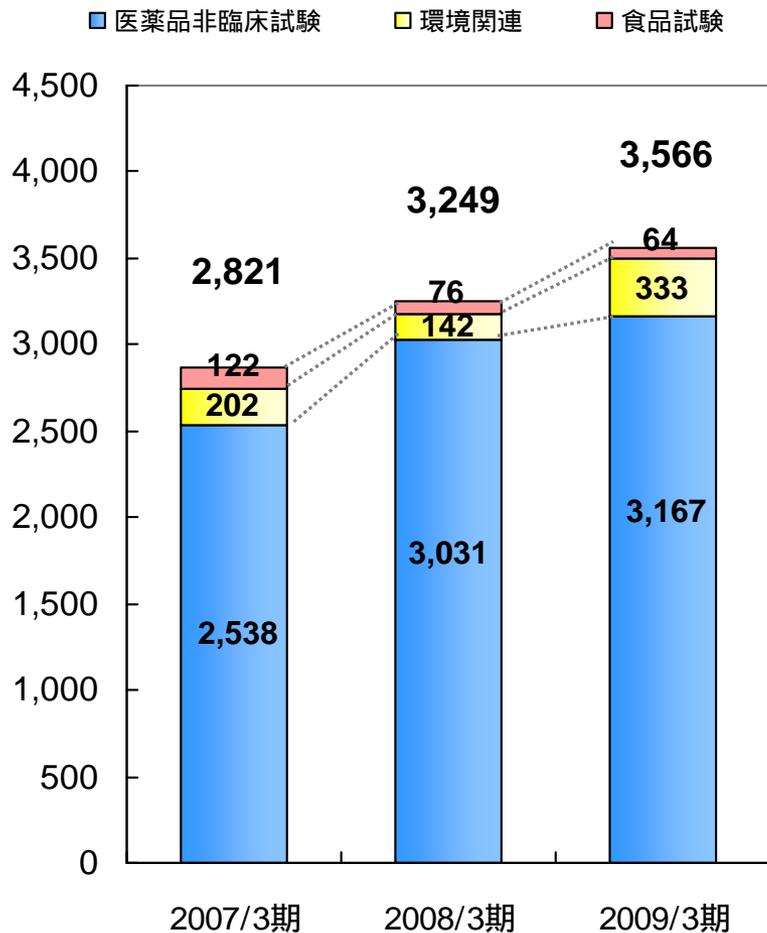
	2 0 0 8 / 3 期	2 0 0 9 / 3 期	対前期比	
	実績	実績	金額	伸長率
売上高	3,249	3,566	316	9.7%
売上総利益	1,245	1,262	17	1.4%
販管費・一般管理費	851	903	52	6.2%
営業利益	393	359	34	8.8%
経常利益	328	295	32	9.9%
当期純利益	175	125	50	28.3%

3-3 . セグメント別：売上高と営業利益

	2008 / 3期		2009 / 3期		(単位:百万円)	
	実績	構成比	実績	構成比	増加額	伸長率
売上高	3,249	100.0%	3,566	100%	316	9.7%
医薬品 非臨床試験事業	3,030	93.2%	3,167	88.8%	137	4.5%
医薬品 臨床試験事業	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他事業	219	6.7%	398	11.2%	179	81.7%
環境関連	142	4.4%	333	9.4%	190	133.6%
食品試験関連	76	2.4%	64	1.8%	11	15.5%
営業利益	393	100%	359	100%	34	8.8%
医薬品 非臨床試験事業	493	125.4%	472	131.6%	21	4.3%
医薬品 臨床試験事業	77	19.6%	84	23.5%	6	8.6%
その他事業 環境関連 食品試験関連	22	5.6%	29	8.1%	6	30.7%

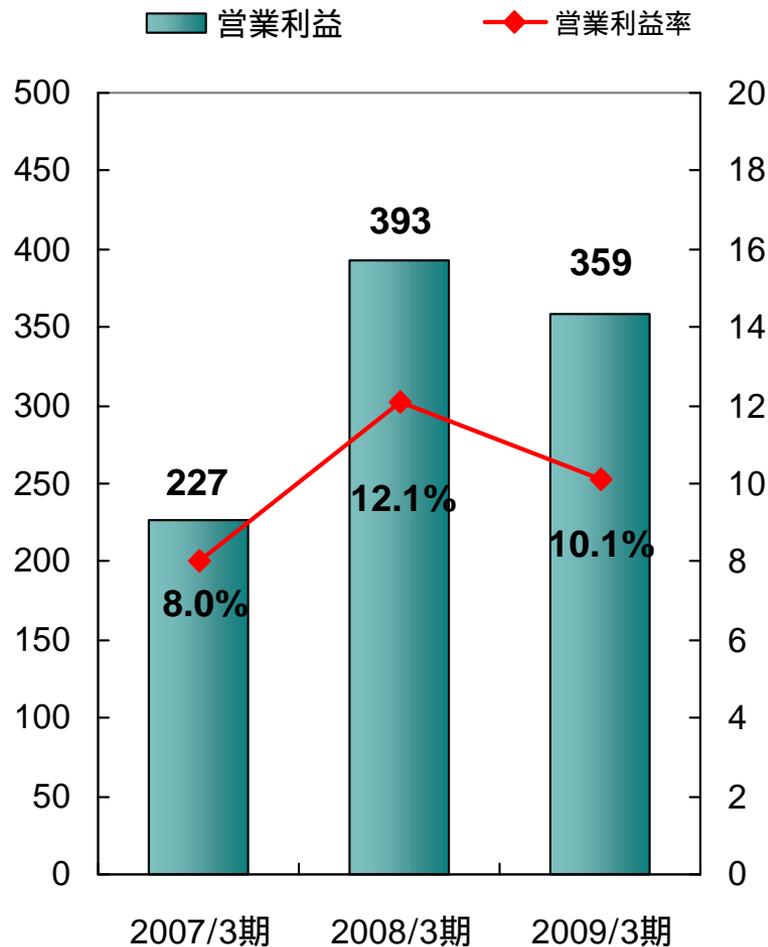
3-4 . 売上高・営業利益：推移

(単位：百万円)



売上高推移

(単位：百万円)



営業利益推移

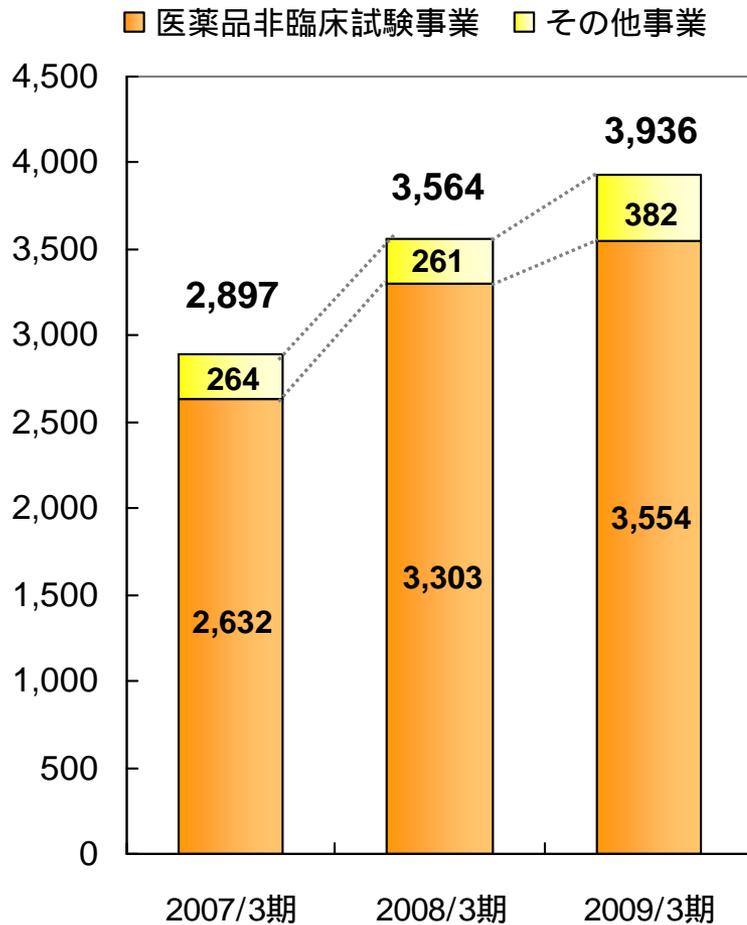
3-5 . 受注高・受注残高

(単位:百万円)

	2008 / 3期		2009 / 3期		受注高 伸長率	受注残高 伸長率
	受注高	受注残高	受注高	受注残高		
医薬品 非臨床試験事業	3,303	2,086	3,554	2,472	7.6%	18.5%
医薬品 臨床試験事業	0	0	0	0	0.0%	0.0%
その他事業 環境関連 食品試験関連	261	66	382	50	46.5%	23.7%
合計	3,564	2,152	3,936	2,523	10.4%	17.2%

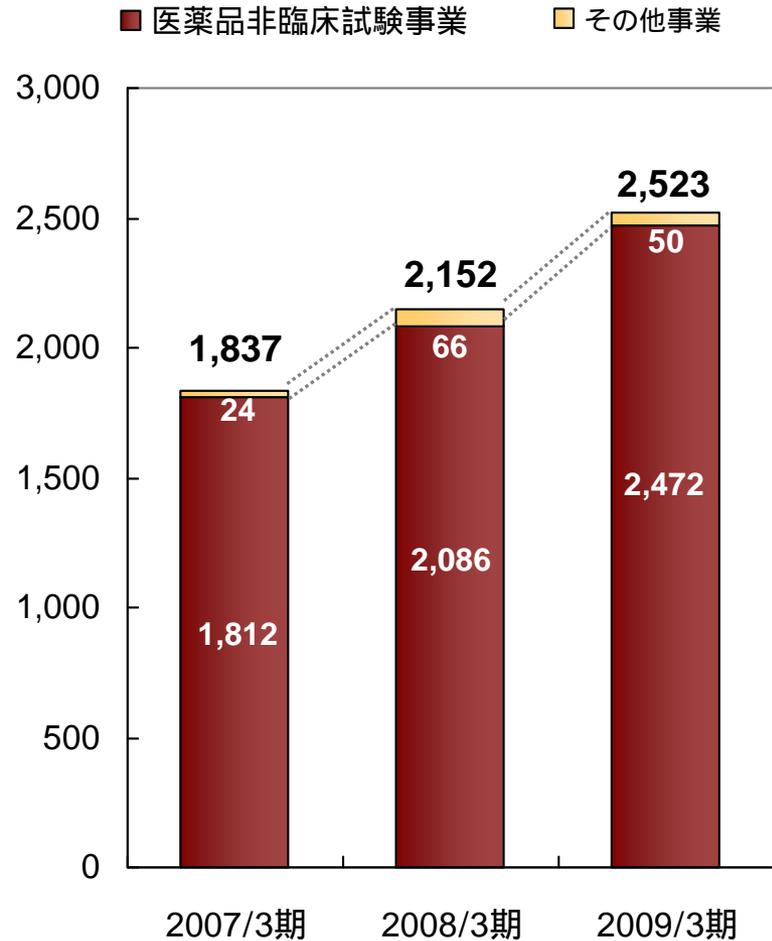
3-5 . 受注高・受注残高：推移

(単位：百万円)



受注高推移

(単位：百万円)



受注残高推移

3-6 . 連結貸借対照表

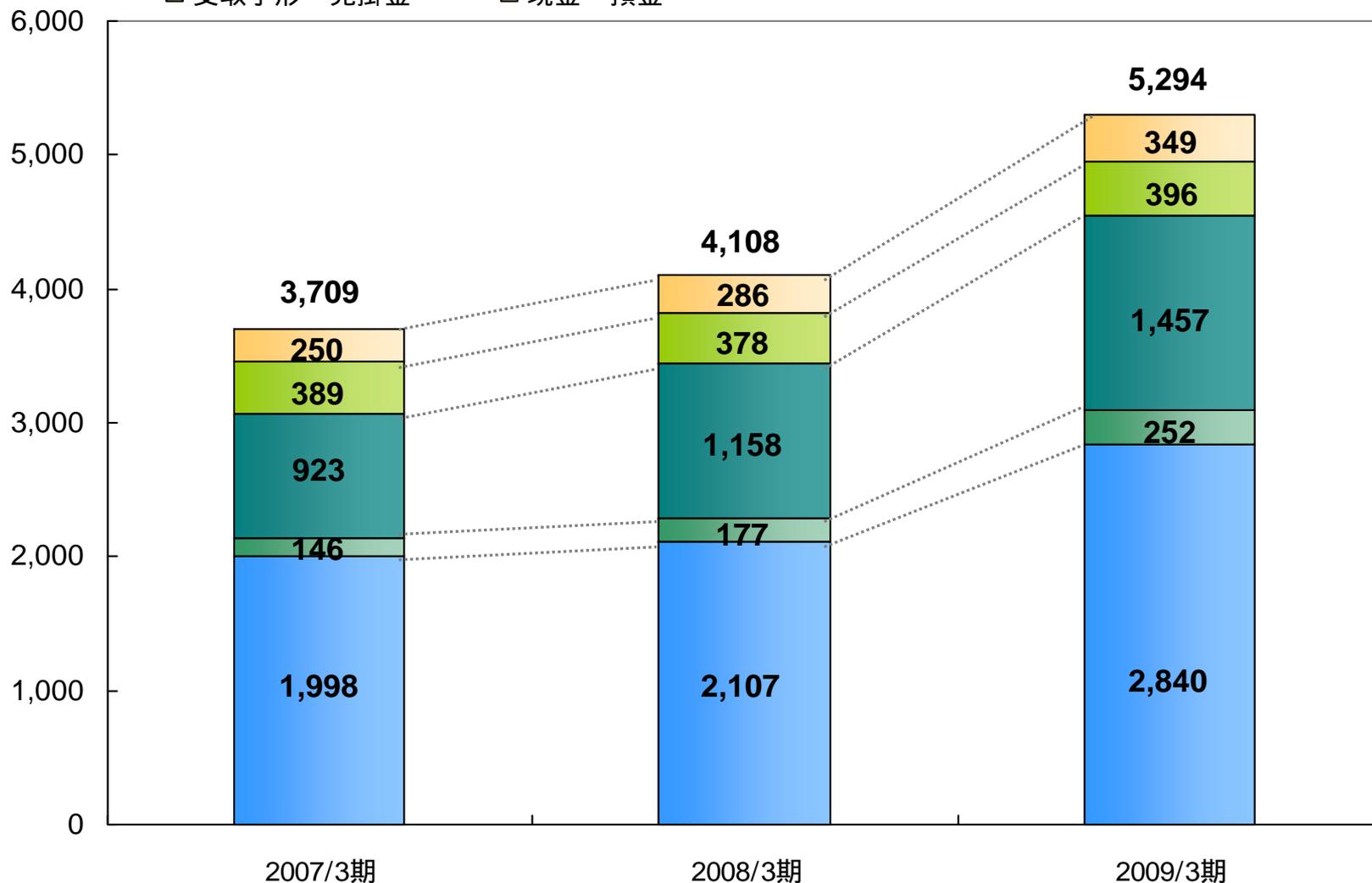
(単位:百万円)

	2008/3期	2009/3期	増減
< 資産の部 >			
流動資産	2,000	2,453	453
現金及び預金	286	349	62
受取手形及び売掛金	378	396	18
たな卸資産/仕掛品	1,158	1,457	1
固定資産	2,107	2,840	732
有形固定資産	2,063	2,797	733
建物及び構築物	1,229	1,858	629
土地	457	627	170
その他	122	150	28
無形固定資産	11	9	2
投資その他の資産	32	33	1
資産合計	4,108	5,294	1,186

3-6 . 連結貸借対照表：推移

(単位：百万円)

- 固定資産
- その他流動資産
- 棚卸資産/仕掛品
- 受取手形・売掛金
- 現金・預金

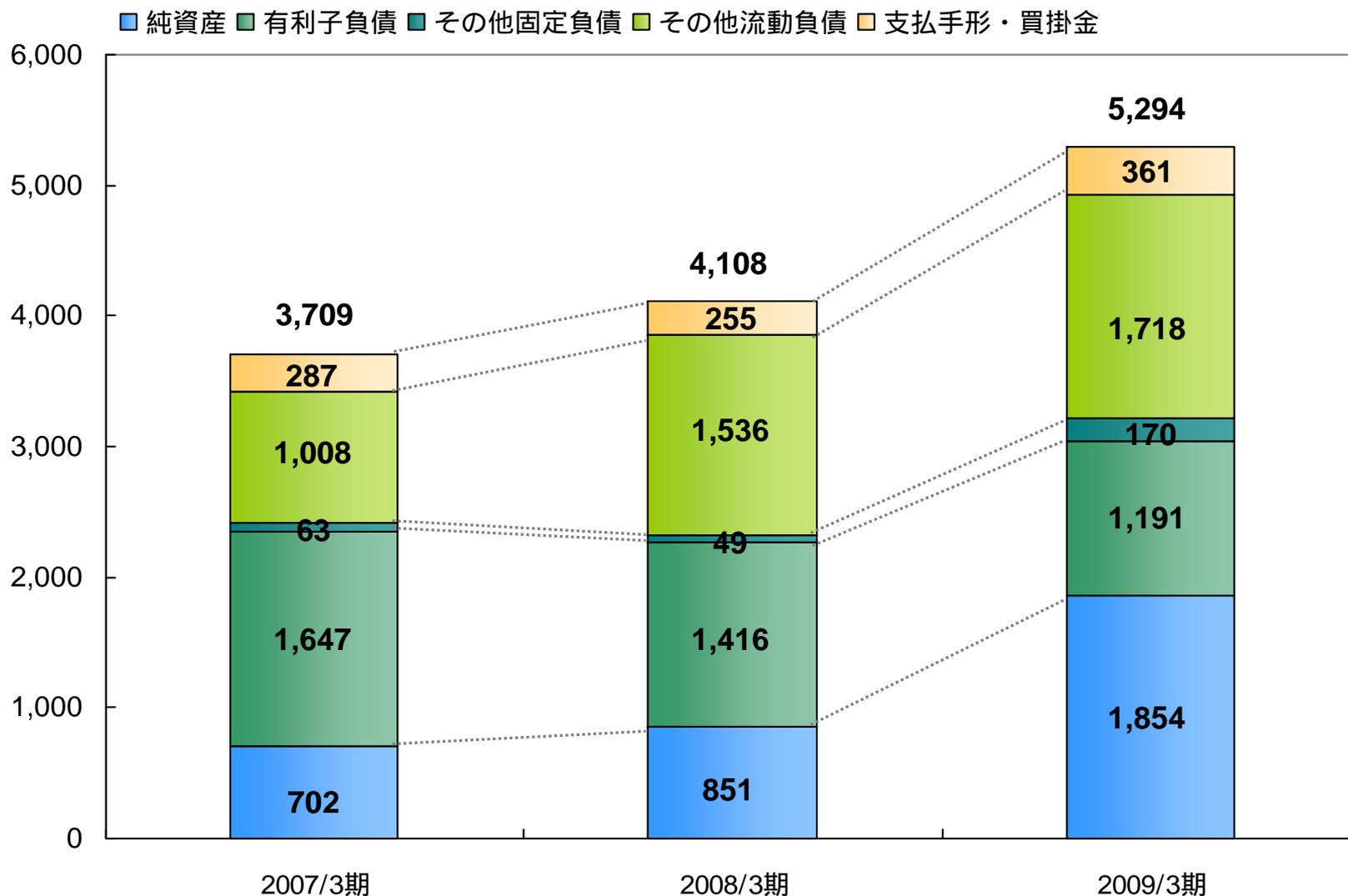


3-6 . 連結貸借対照表

	2008 / 3期	2009 / 3期	増減
< 負債の部 >			
流動負債	2,556	2,840	283
支払手形及び買掛金	255	361	106
短期借入金	500	540	40
1年以内返済予定長期借入金	265	222	43
前受金	810	1,160	349
固定負債	700	599	100
長期借入金	651	429	222
負債合計	3,257	3,440	183
< 純資産の部 >			
株主資本	767	1,834	1,067
少数株主持分	90	77	13
純資産合計	851	1,854	1,003
負債純資産合計	4,108	5,294	1,185

3-6 . 連結貸借対照表：推移

(単位：百万円)



3-7 . 連結キャッシュフロー

■営業活動によるキャッシュフロー：

第7棟建設で償却費・リース料等の経費増で収益を圧迫し、減少

■投資活動によるキャッシュフロー：

設備投資（新棟836百万円、施設改修62百万円、土地取得183百万円）による

■財務活動によるキャッシュフロー：

ジャスダック上場の際、新規株式5,800株（総額960百万円）発行により増加

（単位：百万円）

	2008 / 3期	2009 / 3期	増減
営業活動によるキャッシュフロー	436	268	168
投資活動によるキャッシュフロー	168	899	731
財務活動によるキャッシュフロー	242	697	939
現金及び現金同等物の増減額	24	50	26
現金及び現金同等物の期首残高	231	255	24
現金及び現金同等物の期末残高	255	306	50

3-8 . 2009年3月期 株主還元について

■配当実績及び当期配当金について

配当金額の推移

1株当たり配当金

2007年3月期	2008年3月期	2009年3月期
500円	1,100円	1,600円 普通配当 850円 <u>上場記念配当 750円</u> (配当性向36.3%)

4 . 今後の取り組み

4-1 . 組織運営の変革

執行役員制度の導入

当社のコーポレート・ガバナンスの一層の強化を図り、取締役会の意思決定の迅速化と業務執行の効率化を高めるため執行役員制度を導入

組織のフラット化

業務執行の効率化を高めるため、本部制を廃止し、部または室単位で執行役員が業務執行を担当するフラットな組織編成とする

チーム制の導入

よりフレキシブルな試験実施体制の構築と多能化を推進するため、試験研究センターにチーム制を導入

サルを使用した特質化試験の強化

高品質なサル供給体制と技術者育成強化

- サル育成施設(PQCC)の増強によるINARPからサル供給数増強
- サル熟練技術者の継続的な育成

サルを用いた試験の強化・拡販

- 一般毒性試験
- 科学技術振興機構「独創化モデル」に採択されたAV-ブロック等の安全性薬理試験の積極的なPR、海外向け営業強化
- 新棟（第7棟）の稼働率向上



サルを用いた安全性薬理試験、薬物依存性試験、緑内障関連試験など
特質化試験の推進

4-2-2 . 医薬品 非臨床試験事業

営業力の強化とグローバル化

コンサルテーション営業の強化

- 30年間の技術及び試験ノウハウを生かし、非臨床及び臨床ステージにおける安全性試験全般のコンサルテーションや提案型の営業活動を展開

海外営業の強化



- 韓国有数のパートナーとの協力体制構築による受託強化

- 本年中にヨーロッパ営業拠点（法人）を設立予定

- 米国に営業拠点を設け、安全性薬理試験の受託を推進

臨床試験ビジネス

Thorough QT/QTc 試験のビジネス導入

- ICH E14 ガイドラインに準拠したフルサイズ Thorough QT/QTc 試験への展開 **今期内受注をめざす**
- 探索的 QT/QTc 試験の拡販
- ICH E14 国内ガイドライン化へ向けての対応
- フィリピン国内の臨床ボランティア(日本人含む)の更なる充実
- Phase I , Early Phase II 実施へのアプローチ

4-2-4 . その他事業

環境関連事業

継続的な積極営業活動展開

- 超大型物件プロジェクトや国家プロジェクトへの参画
- 医薬品、環境機器関連学会・展示会での積極的なプロモーション活動

食品試験事業

顧客の視点に立った高品質なサービス提供を目指す

- 外部専門家と連携しコンサルテーションを含めた総合開発支援を展開
- 食品関連学会・展示会に出展し、さらに知名度を向上させる

5 . 2010年3月期 計画

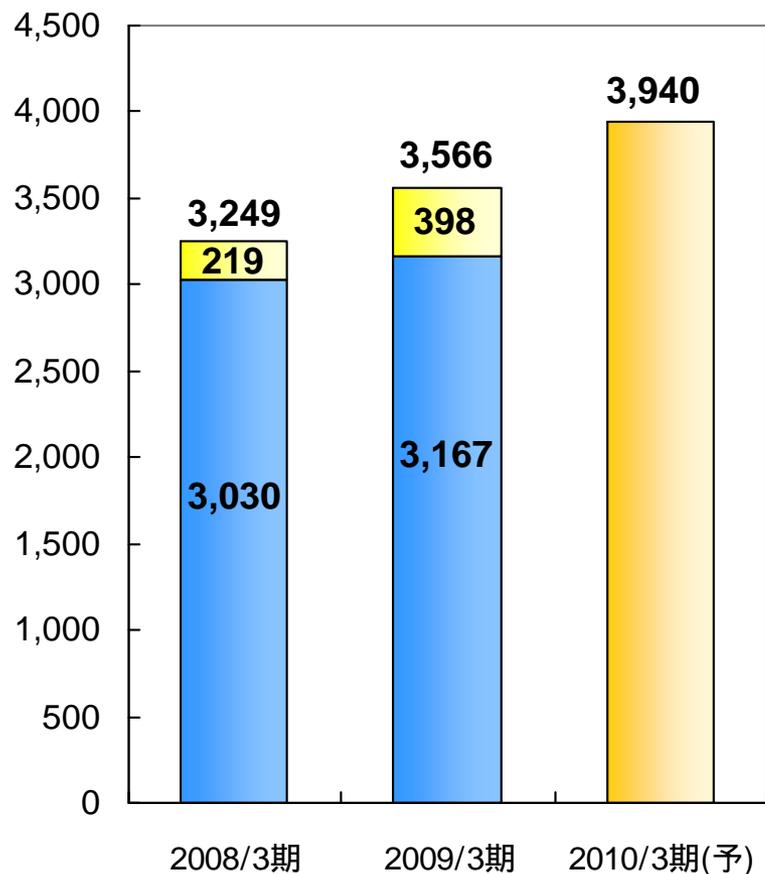
5-1 . 2010年3月期 業績予想

	2009/3期	2010/3期	対前期比	
	実績	予想	金額	伸長率
売上高	3,566	3,940	373	10.5%
営業利益	359	401	42	11.8%
経常利益	295	359	64	21.7%
当期純利益	125	196	71	56.1%

5-2 . 売上高と営業利益の推移（予想）

（単位：百万円）

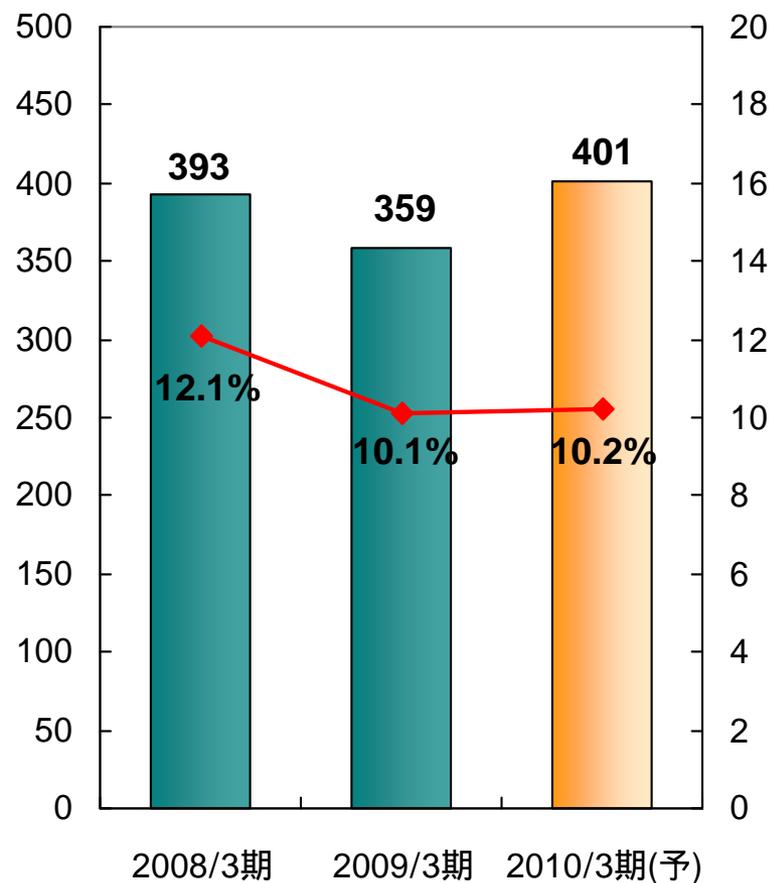
■ 医薬品非臨床試験事業 ■ その他事業



売上高推移

（単位：百万円）

■ 営業利益 ◆ 営業利益率



営業利益推移

■利益配分に関する基本方針

配当性向20%を目標

■配当実績及び当期配当金について

配当金額の推移

1株当たり配当金

2008年3月期	2009年3月期	2010年3月期（予想）
1,100円	普通配当 850円 上場記念配当 750円	1,300円 (配当性向20.1%)

ご清聴ありがとうございました

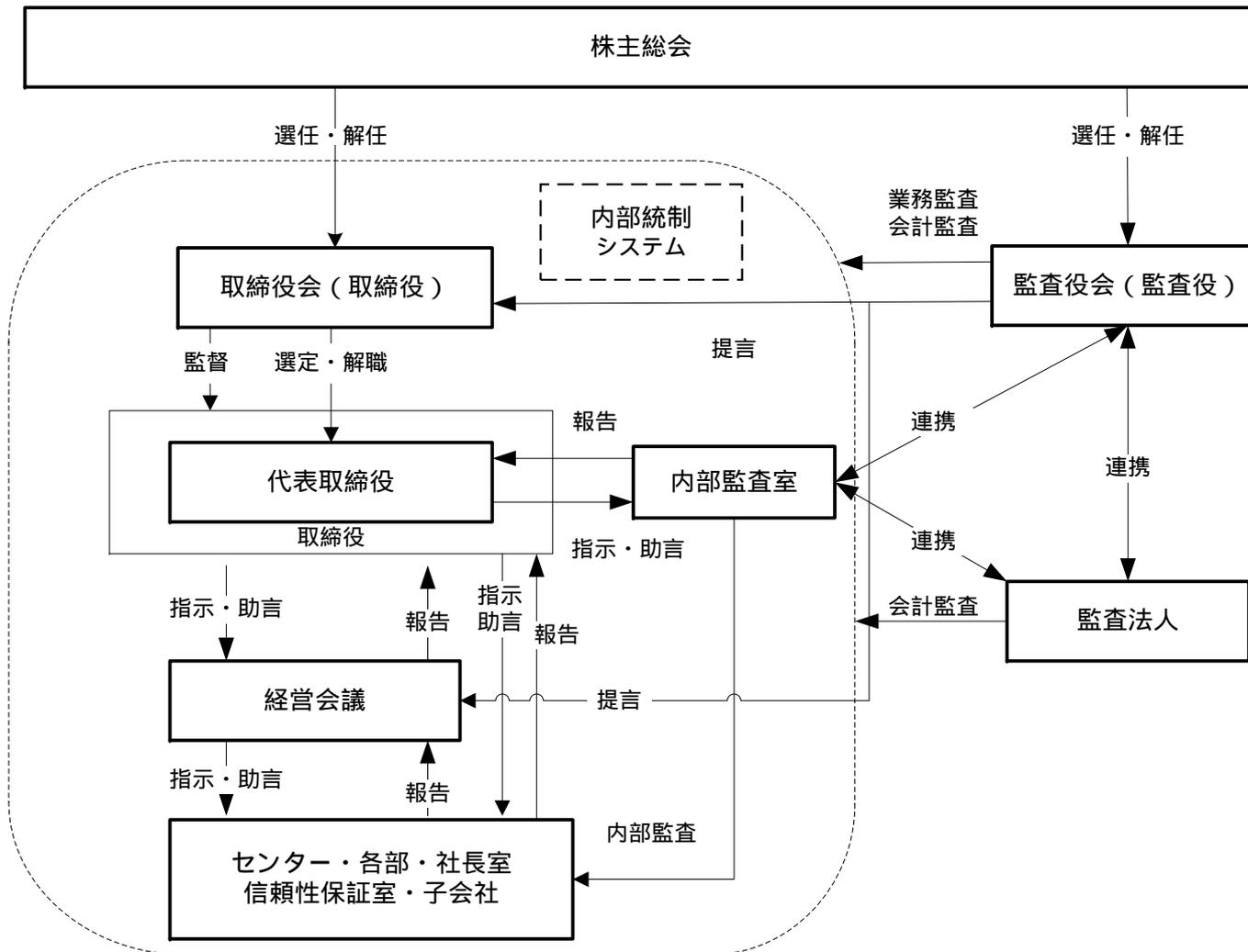
医薬品開発のベストパートナーとして
Qualityにこだわり そして進化する

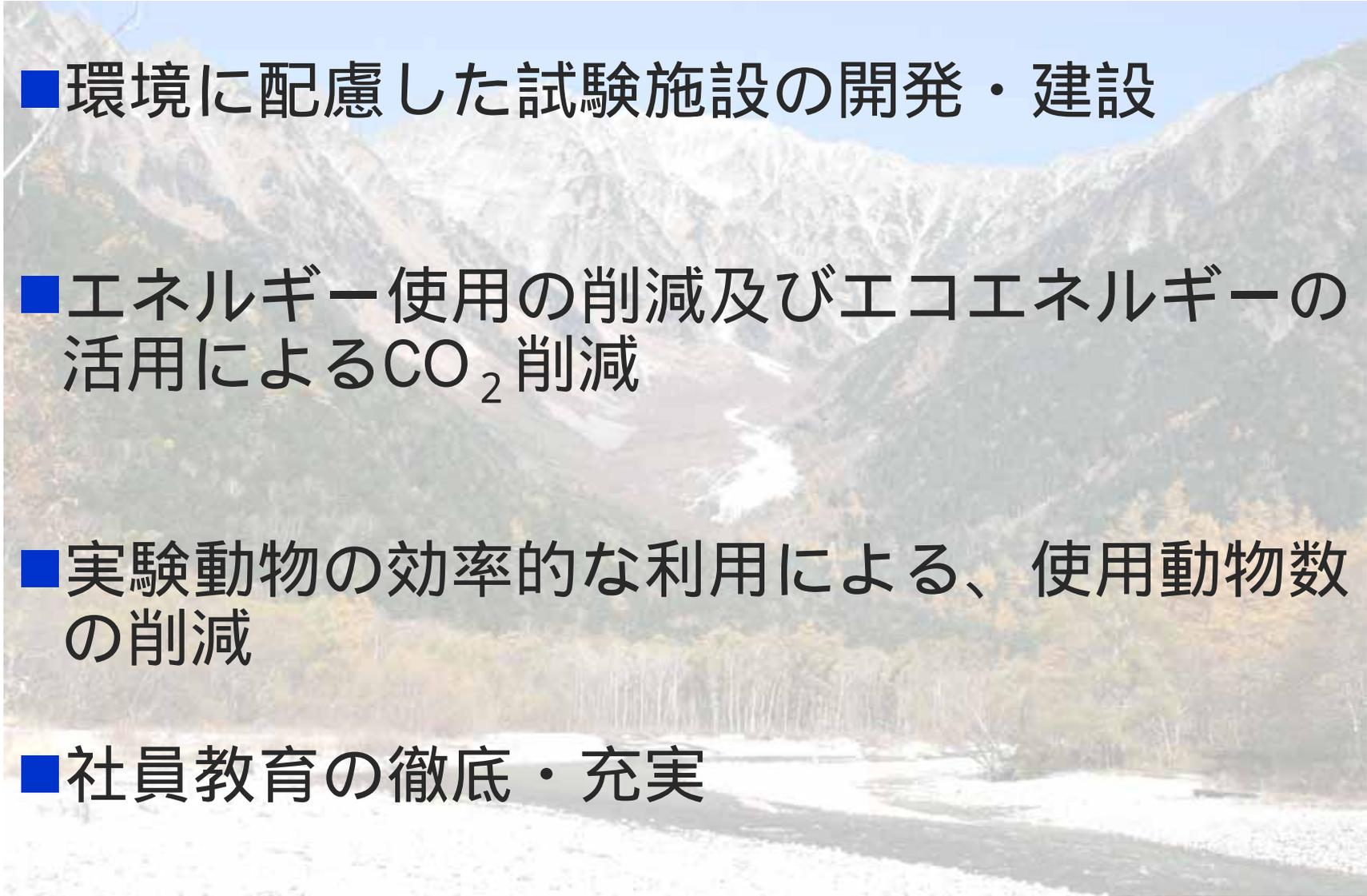
それがイナリサーチのビジョンです

ご参考資料

コーポレート・ガバナンス

当社のコーポレート・ガバナンスの体制の概念図は下記のとおりです



- 
- 環境に配慮した試験施設の開発・建設
 - エネルギー使用の削減及びエコエネルギーの活用によるCO₂削減
 - 実験動物の効率的な利用による、使用動物数の削減
 - 社員教育の徹底・充実

本資料に関するお問い合わせ

株式会社イナリサーチ
社長室 IR担当

TEL : 0265-73-6647

医薬品開発のベストパートナー

 **Ina Research Inc.**

<http://www.ina-research.co.jp/>

本資料に関するご注意

本資料は、株式会社イナリサーチの事業及び業界動向に加えて、株式会社イナリサーチによる現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明はさまざまなリスクや不確かさがつきまっています。既に知られたもしくははいまだ知られていないリスク、不確かさ、その他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。株式会社イナリサーチは将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なるか、さらに悪いこともありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、平成21年7月14日現在において利用可能な情報に基づいて、株式会社イナリサーチにより平成21年7月14日現在においてなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。